

複数学年構成や児童生徒の実態差に対応した 特別支援学級「授業づくりガイド」 【リーフレット版】

特別支援学級での授業が充実するために

特別支援教育を必要とする児童生徒が増加する中、各学校では児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うため、創意工夫を凝らした授業づくりに取り組んでいることと思います。特に、複数学年構成や実態の異なる児童生徒が在籍する特別支援学級においては、「どのように指導を進めればよいか」、「より効果的な方法はないか」など、様々な思いを抱えながら取り組んでいるのではないのでしょうか。

特別支援学級の授業を充実させるためには、管理職のリーダーシップの下、全職員で共通理解を深めながら、児童生徒の実態を正しく把握し、適切な指導内容を設定することが大切です。具体的には、指導体制の検討や時間割の工夫を行うことで、一人一人の実態に応じた指導・支援につながります。

本リーフレットは、令和5・6年度鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課調査研究「これからの特別支援教育における児童生徒の多様な学びの充実-特別支援学級の指導方法の提案-」の成果をリーフレット版としてまとめたものです。「学びやすい学習環境」や「授業構成のルーティン化」、「自立活動との関連を意識した指導」、「UDL (Universal Design for Learning) の視点からの授業づくり」など、授業づくりのポイントをまとめていますので、ぜひ活用してください。

※ このリーフレットに掲載している資料の詳細は、下記二次元コードからダウンロードできます。



[複数学年構成や実態差のある特別支援学級の「授業づくりガイド」](#)



令和8年3月



鹿児島県教育委員会

授業づくりのポイント

① 児童生徒の実態に応じた指導

児童生徒の得意なことや苦手なこと、今できることやもう少しでできることを、チェックリスト等を活用して、具体的に把握しておきましょう。

【実態把握のためのツール（例）】

- 1 アセスメントシート（鹿児島県総合教育センター）
- 2 子供をよりよく理解するための国語、算数・数学チェックリスト（鹿児島県総合教育センター）
※ 1, 2は管理職を通じて鹿児島県総合教育センターへ使用の旨、連絡いただければ所属先へ送付します。
- 3 LD, ADHD 等気付きのためのチェックリスト（文部科学省）
※ 3は鹿児島県総合教育センターWeb ページからダウンロード可能です。



② 学びやすい学習環境

- 1 教室環境の構造化
- 2 学習活動の構造化
- 3 時間の構造化



見通しのもちやすさ

4 一人で学習を進めるための学習環境づくり



学習の基本的な内容をプリントにまとめ、ファイルに保管し、いつでも必要なときに取り出して、確認することができますようにします。

周りの刺激を減らすために、パーティションを設置します。
パーティションがない場合は、段ボールなどでも代用が可能です。



【ワークシステム（児童生徒一人一人の実態に応じた学習の仕組み）の工夫】

- ① 一人でできる、少し頑張ればできる課題を準備します。
- ② 初めのうちは手順を説明しながら、一緒に取り組みます。
- ③ 見通しがもてるようになったら、一人で課題に取り組むようにします。
- ④ 児童生徒の実態に応じて、課題の量を調整します。



③ 授業構成のルーティン化 ④ 直接指導と自主学習を組み合わせた指導

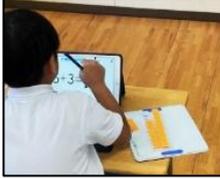
算数科のルーティン化した授業展開例

※オレンジ色掛け部分は、直接指導

過程	活動	A児	B児	C児
導入	自立活動内容 前時復習 課題提示	数遊び、模様作りなど		
		前時の練習問題		
展開	自分で解決 先生と確認	本時の課題	(答え合わせ・訂正)	(答え合わせ・訂正)
		本時の課題の提示	本時の課題の提示	(再確認)
		自分で解決	自分で解決	本時の課題の提示
終末	振り返り 練習問題	先生と確認	先生と確認	自分で解決
		振り返り	振り返り	先生と確認
		練習問題	練習問題	振り返り

算数科・実践例（小学校知的障害特別支援学級）

1年「たしたりひいたりしてみよう」 2年「同じ数ずつのものの数え方を考えよう」

過程	学習内容（活動内容）		
	児童A～児童D（1年）	児童E（2年）	児童F～児童H（2年）
導入	1 学習の流れを確認する。 2 前時までの学習を振り返る。 3 本時の学習を確認する。		
展開	4 ロイロノート・スクールやAIドリルを使って、復習問題に取り組む。	4 本時の課題をつかむ。 5 いろいろなものの数を数える。	4 今日めあてを話し合って決める。 5 いろいろなものの数を掛け算の式で表す。
	5 本時の課題をつかむ。 6 三つの数の加減が混ざっている計算に取り組む。	6 ロイロノート・スクールやAIドリルを使って、練習問題を解く。	
終末	7 本時の振り返りをする。 8 次時の学習を確認する。		

- ・ 毎時間の内容をルーティン化することで、児童生徒が「次に何をするか」を理解して学習活動に見通しをもって取り組むことができます。
- ・ ヒントカードや、動画資料など、一人で取り組む時間のお助けアイテムを準備しておきましょう。ICT機器の活用（ポイント⑧参照）も考えられます。
- ・ ワークシステム（ポイント②参照）の考え方も参考になります。

⑤ 学習内容を関連させた一斉指導

国語科・実践例（小学校自閉症・情緒障害特別支援学級）

	児童A（小1）	児童B（小2）	児童C（小3）
単元名	順序に気を付けて「じどう車ずかんをつくらう」	順序がわかるように書く「おもちゃの作り方を説明しよう」	例を挙げて書く「食べ物のひみつを教えます」
教材の設定情報の収集内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> 誰に何を伝えるか確認する。 どの自動車について説明するか決める。 自動車の仕事と作りの情報を集める。メモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に何を伝えるか確認する。 作り方を説明するものを決める。 作り方の順序を調べる。メモにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に何をどんな目的で知らせるのか確認する。 いろいろな食品に姿を変える材料を選ぶ。 食品の例を図や表に整理する。
構成の検討	<ul style="list-style-type: none"> 説明の仕方を考える。 「仕事」と「作り」の2段落を「そのために」という接続語でつなぐことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい説明の仕方を考える。 文章の組み立てを確認する。 「作り方」をどの順序で説明するのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はじめ」や「中」、「終わり」に分けて、文章の組み立てを考える。 分かりやすい例の挙げ方（順序）になるよう工夫する。 文の組み立てを構成図に表す。

⑥ 自立活動との関連を意識した指導

⑦ UDL の視点からの授業づくり

国語科・実践例
 (中学校自閉症・情緒障害特別支援学級)

3年「ものの見方・感性を養う～俳句の世界～」

過程	学習内容 (活動内容)
導入	1 『聞く聴くトレーニング～』に取り組む。 2 前時までの学習を想起する。 ・ 俳句の形式・季語 (の季節) の確認。 ・ 前時に作った「俳句のタネ」の想起。 3 本時のめあてを確認する。 目指せ！俳句名人～オリジナル俳句を作ろう～
展開	4 「俳句のタネ」と季語を取り合わせて俳句を作る。 (1) 「俳句のタネ」を読み、想起した場面について交流する。 (2) 季語と「俳句のタネ」と取り合わせ、AかB、どちらかの方法を選んで、俳句を作る。 A：自分で思い浮かべた季語や1人1台端末で検索したものを活用し、自分で創作する。 B：「俳句のタネ」から俳句にする場面を選択する。その後、季語ボックスから無造作に選んだ三つの言葉の語順を検討し、作りあげる。 (3) ロイロノート・スクールに創作した俳句を入力する (イラストや写真、絵も活用可)。 5 できあがった俳句を発表し合う。 ・ お互いの選択した学び方の理由のよさを学び合う。 ・ 「こんなところイイネ！」のカードに意見や感想を記入する。
終末	6 取り合わせによる俳句のよさについて振り返る。 7 本時のまとめをする。

【UDLとは】

UDL (Universal Design for Learning) は、表現方法や学習方法、評価方法などに選択肢を設け、学習者が自分に合った学び方を選べるようにする考え方です。

【自立活動との関連を意識した指導】

相手の話を注意深く聞くときの大事なことを意識して活動に取り組むことができるように、自立活動で取り組んでいる内容に関連付けた内容を導入で扱った。

【UDLの視点からの授業づくり】

俳句づくりの進め方を二通り示し、選択して取り組めるようにした。

児童生徒が自分で学びやすい方法を選んで使用できるようにすることが大切です。

UDLは、「個別最適な学び」や「協働的な学び」との関連がとても深いものです。児童生徒自身が自分の「学び方」を知り、学ぶ楽しさを感じたとき、その学びは主体的な学びとなることでしょう。



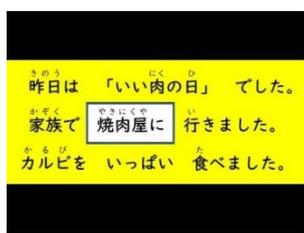
⑧ ICT機器の活用



どこを読んでいるか分からなくなるよ。どうしたらいいのかな。



ルビを振る、文字の大きさや背景色を変える、一部分だけ見えるようにするなどの調整をして読みやすくしたり、読み上げ機能を活用したりします。



年度始めなど、1人1台端末の使用を始めるときのルールづくりが大切です。児童生徒と一緒に使用するときのルールをつくりましょう。児童生徒がルールづくりに参加することで、ルールに対する意識を高めることができます。